



## 東北学院の礎を築いた 3人の宣教師

日本のキリスト教伝道を担っていた押川方義が拠点を東北に移したのは1880年代のことでした。仙台で伝道活動中、宣教師として来日したW・E・ホーイと出会い、活動を共にします。やがてホーイの下には、新しい知識を求める青年たちが集まるようになり、1886年、私塾「仙台神学校」を設立します。翌年来日した宣教師D・B・シュネーダーが教授として加わり、キリスト教の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」をめざしていくことになったのです。



初代院長(1850~1928)  
押川方義



初代副院長(1858~1927)  
W・E・ホーイ



第二代院長(1857~1938)  
D・B・シュネーダー

南町通りに仙台神学校校舎が完成し、校名を「東北学院」に改称。1922年に再建された中学部校舎(通称「赤レンガ校舎」)の正面には、現在のスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」が刻まれていました。現在の大学本館は旧専門部校舎であり、戦後の東北学院再興の象徴でもあります。



## 新たな時代を切り拓く、 「知」の拠点

第二代院長に就任したシュネーダーは、50年にわたり学院の発展に尽力しました。1891年、キリスト教伝道者育成をめざす仙台神学校が今日の「東北学院」に改称され、普通教育・高等教育機関として整備されていくこととなります。世界的な経済不況や、度重なる戦禍を乗り越えてきた東北学院は、戦後、平和と民主主義を軸とする新しい教育理念に基づき、文経学部を擁する新制大学を設置。その後も数々の教育改革を成し遂げ、東北で唯一の私立総合大学としての地位を築いていきます。そして新制大学として70年以上、これまで20万人以上もの卒業生を送り出してきた東北学院大学は、2023年4月に開学した「五橋キャンパス」の下、土樋キャンパスと一体化した「ワンキャンパス」で、新たな時代を切り拓く人材を育成し続けています。

個人の尊厳の重視と、  
人格の完成をめざす。



## 東北学院大学の キリスト教教育の本質

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとしました。その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成をめざすものです。その「建学の精神」を象徴するスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」とは、イエス・キリストの「命(いのち)・光(ひかり)・愛(あい)」を指します。キリストの命が私たちに与えられ、キリストの光が私たちを照らし、キリストの愛が私たちを包んでいます。それゆえ私たちがまた人々の命のために仕え、人々に光を与えるために働き、人々を自分のように愛するのです。これは聖書を根拠にした本院に関するすべての人々に対する教えであり、本院の創設時から大切にされてきた言葉です。これからも東北学院大学は、キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することをめざしていきます。

